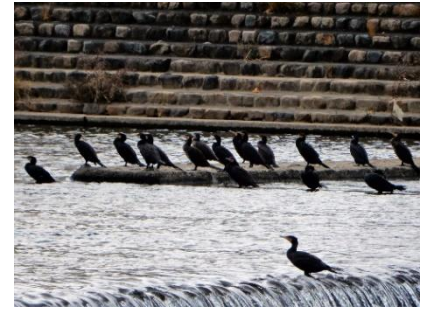


武庫川だより「カワウの不思議」

森田 至

1. 集団全員が同じ方向を向いているのはなぜ？

これは風向きの向かい風の方を向いています。
飛行機と同じで飛び立つため効率的な揚力を得るためです。



2. カワウは繁殖期間が長いのはなぜ？また、白い羽毛は？



普通、陸鳥では子どもの餌になる虫などが発生する春の時期に繁殖があります。カワウはその点、魚を食べますので年中餌があるということになります。したがって年中繁殖が見られますが、ピークは9～11月と2～4月頃です。

写真の羽毛の白い部分は繁殖羽（婚姻色）というものです。また、羽を広げているのは羽を乾かしているのは羽を乾かしているという説と魚を食べた満足感があるときに広げると言う説もあります。

私の経験では小雨の時にも羽を広げているのを見ましたので、頭が？になりました。

3. V字編隊飛行をするのはなぜ？

カワウは大型の渡り鳥のようにV字編隊飛行をします。
前を飛んでいる斜め後ろを飛ぶと上昇気流が発生していてラクに飛べるからです。先頭が疲れると次々と変わっていくそうです。

武庫川ではAM8時頃に宝塚新大橋付近で上流に向かうのを数回見ました。



ちなみに、みなさんは「うろのたたかい」という言葉をご存じですか。これは「烏鷲の戦い」のことで、「う」は鶇のことではなくカラスのことです。カラスとサギは白黒なので囲碁のことを言っています。

「県立宝塚西高校に生息するオオムラサキ」

森野光太郎



宝塚市の市街地にも会えて嬉しい昆虫がいます。六甲山系の虫といえばキベリハムシが特産という人もいますが、エノキやコナラが生えていて、幼虫の越冬する落葉だまりが残る場所にはオオムラサキも生息しています。

本種のオスは、翅の表側に光の加減で鱗粉の光沢が変化する構造色という特徴を持っており、翅の裏側は白銀色をしています。

この2枚の写真を比べると、光の当て方によって紫色の発色加減が変化しています。しかし、実はこの翅や鱗粉は紫色をしていないのです。

このような色を生み出しているのは、微細な格子状の鱗粉構造によってできる「構造色」によるも

ので、この特徴はいろんなチョウに共通して見られます。

この写真は、県立宝塚西高校にやってきた本種を撮影しました。宝塚の市街地もこのように自然が残っているので、みなさんも近くを散策してみると身近に意外な発見があるかもしれません。そんな時は、宝塚市内だけではなく、いろんな場所でいろんな発見のできごとをニュースレターへ投稿して教えてください。

「カワラサイコ」(武庫川河川敷) 6月5日開花

吉田幸子



宝塚市武庫川町地先(宝塚自然保護協会で「カワラサイコ」調査をしている生育地1)では、過去12年間で一番早い開花です。2020年度武庫川の大規模な浚渫工事が、行われた宝塚大橋南の川べりの河川敷です。高さ55cm程の大きな株に2輪咲いていました。♥型の花びらは直径0.8cmの大きさです。浚渫工事にあたって、県の大掛かりな草刈りが行われた際、「カワラサイコ」の生育地として草刈りの対象から外してもらいました。花のみち自治会として申し入れました。ここ3年では、この地の生育地1が一番の群生地です。

7月になれば、見応えのある花盛りの「カワラサイコ」と出会っていただけます。是非、武庫川町地先へお越しください。



7/10「ハッチョウトンボ」観察会(場所:宝塚自然の家の中にある松尾湿原)

梅雨末期で雨が降り続く中、実施できるのかと思っていましたが、雲の切れ間で30名を超える方の参加がありました。

足立顧問から松尾湿原の歴史や36年ぶりに「ハッチョウトンボ」が出現した話がありました。その後、宝塚エコネットさんの指導でハッチョウトンボが今どれくらい生息しているかの調査。今日は98匹でしたが、1か月前の調査では160匹程いたそうです。



(足立顧問の話)



(赤いのがオス)



(こちらがメス)



引き続き福井先生の「湿原植物の観察会」



(カキラン)



(ノギラン)



(モウセンゴケ)